

記者発表資料
配 付 日

令和 7 年 9 月 2 6 日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ、広島県政記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

温井ダム ハイブリッドダム運用の深化！ ～地域振興のための放流（観光放流）を実施～

温井ダムでは、令和5年度からハイブリッドダムの取組として大きな降雨が見込まれない場合に治水に必要な容量（洪水調節容量）（以下、「治水容量」という。）に流水を貯留しカーボンニュートラルを目指した水力発電の増電を行う水位運用高度化操作の試行を行ってまいりました。

温井ダムでは、水の恵みの最大化等流域総合水管理の観点からハイブリッドダムの取組を深化させ、治水容量への流水の貯留量を増やし水力発電の増電に加え地域振興のための放流等でも貯留した流水を活用する水位運用高度化操作の試行を令和7年9月から実施することとしました。

温井ダムの中位標高放流設備からの放流は、春の水位低下放流時には多くの方に来場いただき、ダム周辺地域の賑わい創出に繋がっているところです。今後は、年間を通した温井ダム放流計画を作成、公表（web等）することで、さらに多くの方に温井ダムの放流を楽しんでいただければと考えております。

なお、中位標高放流設備からの放流については、ダム下流での水利用等を考慮し、全量をダム直下の減勢池に貯留して行います。

<問い合わせ先>

国土交通省 中国地方整備局 温井ダム管理所

TEL : 0826-22-1501（代表）

HP : <https://www.cgr.mlit.go.jp/nukui/index.htm>

管理所長 はまだ けんいち 健一（内線201）

【担当】専門官 まえかわ かずひろ 前川 和広（内線330）



Xはこちら

温井ダム中位標高放流設備からの放流

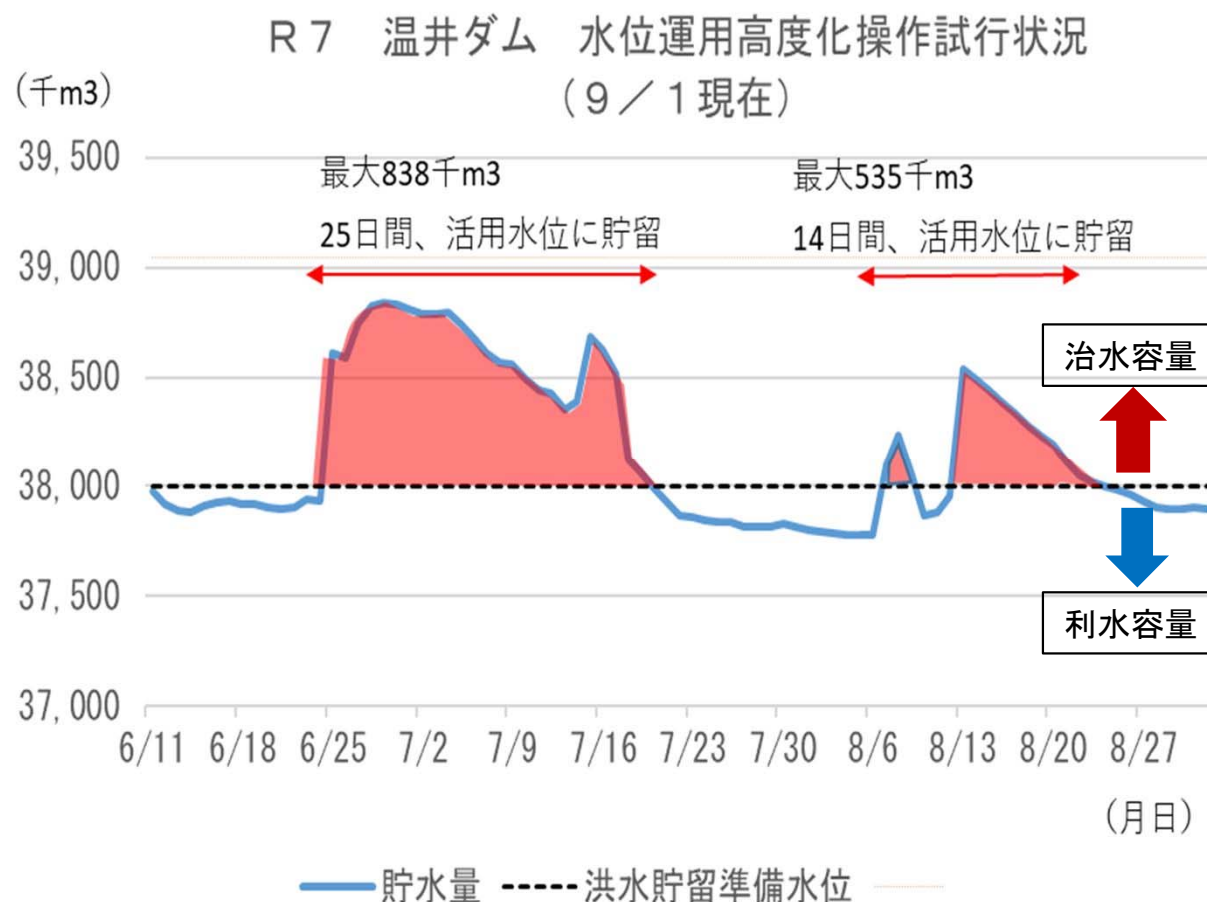
毎春、洪水期に向けて温井ダムの貯水位を洪水貯留準備水位まで低下させるために、中位標高放流設備からの放流を行っており、多くの方にご来場いただいております。

今後は、水位運用高度化操作により貯留した流水も活用して放流を行い、温井ダム周辺地域の賑わいづくりに貢献します。



令和7年の温井ダム水位運用高度化操作試行状況

- ・9月1日までに延べ39日間、約1,373千m³を貯留
- ・貯留した流水を水力発電の増電等に利用



【参考】ハイブリッドダム

流域治水×水利用

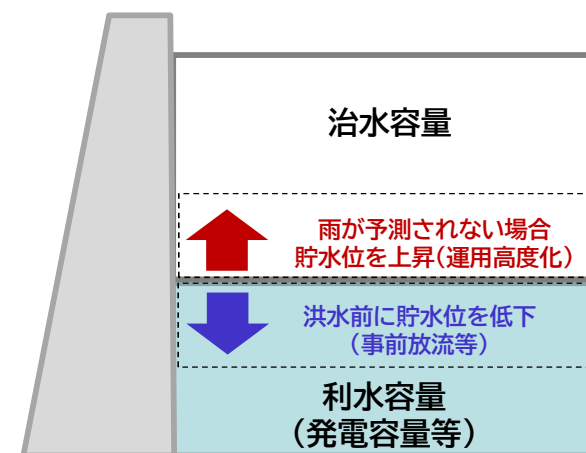
<利益相反の例>

治水面ではダムの水位は低い方が望ましく
利水面(発電)では高い方が望ましい

<相乗効果の具体例>

治水機能の強化と水力発電の促進を
両立するハイブリッドダムの取組

気象予測を活用したダム運用の高度化



水災害による被害の最小化
＋
水の恵みの最大化

【参 考】

令和8年度予算の概要

水管理・国土保全局の取組(2) ～ 流域総合水管理への展開 ～

- 治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者と協働して取り組むとともに、流域治水・水利用・流域環境間の「相乗効果の発現」「利益相反の調整」を図るなど、流域治水・水利用・流域環境の一体的な取組を進めることで「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進する。

